

デザイン学学位プログラム（博士後期課程）

Doctoral Program in Design

- 博士（デザイン学）
- Doctor of Philosophy in Design

人材養成目的 / Program Educational Objectives

人のこころをより良い状態にする製品や環境を生み出す実践的な力を修得し、人と人のつながりを作り明るく充実したものとする社会システムの創造を目指し、豊かで建設的な地域や社会を育み維持再生するための創造力を活用できる、国際的トップリーダーの資質を持ち、産業界や行政など多様な研究・教育機関の中核を担う研究者を養成する。

養成する人材像	横断的・実践的かつ国際的な学修を実践し、地域や文化の壁を越えた問題解決策を提案する意欲と、成果を生み出す粘り強さを持ち、目利き力（課題抽出能力）、突破力（計画立案能力、論理的説得力）および専門的研究を遂行する任務完結力を備えた人材。
修了後の進路	産業界や大学等の研究組織における研究者、デザイン、建築にかかわる企画開発者、エンタテインメント産業のデザイナー・アーティスト、デザインコンサルタント等

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学大学院学則及び関係規則に規定する博士後期課程の修了の要件を充足したうえで、次の知識・能力を有すると認められた者に、博士（デザイン学）の学位を授与する。

	コンピテンス	評価の観点	対応する主な学修
知識・能力	1. 知の創成力：未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	①新たな知の創成といえる研究成果等があるか ②人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導するデザイン学特別研究 B に加えて、博士論文研究の推進、学会発表など
	2. マネジメント能力：俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	①重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ②専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導するデザイン学特別研究 B を含むデザイン学特別研究に加えて、研究倫理、研究会等の運営、達成度自己点検など
	3. コミュニケーション能力：学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	①異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ②専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えとともに、質問に的確に答えることができるか	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導するデザイン学特別研究 B を含むデザイン学特別研究に加えて、サイエンスコミュニケーション特論、学会発表、ポスター発表など
	4. リーダーシップ力：リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	①魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ②目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導するデザイン学特別研究 B に加えて、インターンシップ、TA、TF 経験、研究会の運営、プロジェクトの参加経験など
	5. 国際性：国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	①国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ②国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	デザイン学特別研究 D、海外研修など国際性について学ぶ科目の履修または、国外での活動経験、留学生との交流、TOEFL/TOEIC 得点、国際会議発表、外国人との共同研究など

	コンピテンス	評価の観点	対応する主な学修
知識・能力	6. 構想・思考力：高度な課題抽出能力(目利き力)と専門的研究計画立案能力	専門的な問題の細部にも精通し、高い課題抽出能力を活かして研究・制作を立案・実施する力を身に付けたか。	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導するデザイン学特別研究 B を含むデザイン学特別研究に加えて、学会等での発表成果を参考にする
	7. 分析力：高い視野に立って広い視点から問題を解決す高度な問題分析力	①専門分野における高度で優れた研究を実施するための高い専門的問題分析力を身につけたか。 ②広い分野と高い専門的知識から、総合的なデザイン課題を分析する能力を身につけたか。	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導するデザイン学特別研究 B を含むデザイン学特別研究査読付き学術雑誌における論文発表審査制度の確立している組織によって国際的に評価された作品を参考にする
	8. 解決力：高度な専門性に裏付けられ、新しい解決策を生み出し、成果を社会や学術界に提案する力	博士論文のための研究やインターンシップ等、研究の実践により高度な問題解決力（任務完結力）・強靱な突破力（計画立案能力）を獲得したか。	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導するデザイン学特別研究 B を含むデザイン学特別研究インターンシップを行った場合はインターンシップ先からの評価を参考にする
学修成果の評価に関する方針	<p>学修成果の評価は「達成度評価表」に基づく達成度評価によって以下の段階毎に学位授与の方針に基づくコンピテンスの修得状況を客観的に確認し評価する。達成度評価の段階・方法を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1年次春学期末に全研究指導教員による研究構想発表会を実施し、研究方針の確認と指導を行い、秋学期末に第1回達成度評価を実施する。 - 2年次春学期末に公開発表会、秋学期末に第2回達成度審査を実施し、学修状況の確認と指導を行う。 - 3年次春学期末に博士論文の予備審査（非公開）を実施し、学修状況の確認と最終達成度審査に向けた指導を行う。 - 予備審査合格後、本審査論文を提出されたものについて公開発表会を実施し、主査、副査3名以上で構成される論文審査委員会により博士学位論文の審査を行う。また、本審査と同時に、最終達成度審査を行う。 		

<p>学位論文に関する評価の基準</p>	<p>デザイン学や関連分野の複合的研究課題を自ら設定・解析し、得られた事実に基づいた論理的思考を経て、客観的な結論を博士論文にまとめ、学位論文審査委員会によって論文を審査し、口述試験を経た上で可否を判定する。</p> <p>学位論文審査会は主査および3名以上の副査により構成され、口述試験により審査する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. デザイン学に関する専門的並びに学際的見識に基づいて理論を構築し、社会に発信する能力が認められること。 2. デザインに関する最高度の専門的な知識と技術を有し、デザインに関する研究を論理的かつ科学的に推進する能力が認められること。 3. デザイン学の深い学識を基盤に、国内外の教育・研究機関での人材育成や学術活動を牽引できる能力が認められること。
-----------------------------	--

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

デザイン学学位プログラムは、製品や企画、エンタテインメント、構成、建築、空間計画などの産業や社会にかかわる多様なデザインの研究を遂行するために、高次の専門的課題抽出力（目利き力）、専門的かつ総合的方法論を合わせ広い視点から研究を計画立案する能力、研究実施力、研究完結力、論理的説得力、国際コミュニケーション能力と提案力を育てる。具体的には、構成学、感性科学、視覚心理学などを含むデザインの諸分野に加えて、システム情報工学、環境工学、生理学・人間工学、障害科学など、関連する分野の教員による分野横断的で実践的な学修課程を編成する。

<p>教育課程の編成方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 学位授与の方針に掲げたコンピテンスに対応する主な学修を通じて学修成果を得られるように教育課程を編成する。 - 専門科目 デザイン学特別研究により、総合的な研究計画立案力、研究実施力、研究完結力を身に付ける。 - 大学院共通科目、学術院共通専門基盤科目による、学際的な知識と幅広いデザイン知識の修得を奨励する。 - デザイン学特別研究、インターンシップにより、実践的な課題抽出力、計画立案力、説得力を身に付ける。 - デザイン学特別研究、海外研修により、デザイン、設計、企画を成功させるための国際交渉力とネットワーク構築力を身に付ける。
<p>学修の方法 特色的な教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 1年次に、「研究計画届」を提出し、研究内容に応じた主指導教員と副指導教員を決定する。 - 1年次、2年次の各学期に設定された特別研究を履修し学期末の発表によりその進捗を確認する。 - インターンシップ、海外研修を計画的に履修し、研究の応用力、国際展開力を深める。 - 査読付き学術雑誌での論文発表、審査付き国際コンペでの作品発表等を通じて研究の専門性を深める。 - 2年次中に博士論文中間指導を受け、3年次10月に博士論文を提出する。

入学者受入れの方針 / Admission Policy

求める人材	デザイン学またはデザイン学に関連する研究業績があり、地域や文化の壁を越えたデザイン問題を理論的に解決する意欲および資質のある人材、常に新しい研究課題を生み出すことに挑戦し、成果を生み出す粘り強さを身に付ける意欲のある人材を求める。
入学者選抜方針	選抜においては、提出書類によって、研究歴、学力水準、能力をみると共に、デザインの表現技能に優れた者のみならず多様な研究教育分野からの応募が可能になるように専門領域に関する口述試験によって専門適性を評価する。

学修支援体制 / Learning Support Framework

学修支援	<ul style="list-style-type: none"> - 入学時のオリエンテーション、研究計画届策定、および達成度評価の各段階において、学修成果を生み出すために必要な学びの状況を確認し、大学院共通科目・基礎的な科目などの履修機会を学生と共に検討しながら学修環境を継続的に改善し、整備する体制を整えている。 - 副指導教員体制により、研究指導の客観性と多様な相談への対応体制を整えている。 - 所属年次以外の演習や公開発表会への参加機会を供し、自身の研究体制を客観的に見直す契機とし、研究の深化を支援している。 - 著作権ワークショップ等のFDを実施し、研究を進める上で必要な知識や倫理観を高める機会を提供している。
学生同士の交流機会	<ul style="list-style-type: none"> - 所属年次以外の演習や成果発表会への参加機会を供し、質疑応答の場などを通じて、学年 / 組織を超えた学生同士の交流機会を促進する仕組みを教育課程に組み込んでいる。 - TA・チューター制度や学生プロジェクトの推進により、学生同士が学び合う機会を継続的に生み出す仕組みを創出している。 - 学術院で開催される学生の集いを通じて、専門を越えた学生同士の交流機会を供している。
教員との交流機会	<ul style="list-style-type: none"> - 学術院 / 学位プログラムで企画するFDについて学生の参加を促し、共通の課題意識を認識することによる交流の向上を支援している。 - 学術院で開催される学生の集いを通じて、専門を越えた教員との交流機会を供している。 - デザイン学特別研究等の成果発表会等に学位プログラム担当教員全員が参加し、意見交換などを通じて指導教員 / 指導以外の教員との交流機会を供している。

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 学位プログラムの理念、活動状況、授業・プロジェクト等の学生の活動状況等について、年度毎にまとめ、Design Discourse DPD として発行し、広報に繋げるとともに内外の指導を仰いでいる。
- 学位プログラム運営会議の中に、教務委員会（DP に関わる事項）、カリキュラム委員会（CP に関わる事項）、入試委員会（AP に関わる事項）、FD 委員会（教育力向上に関わる事項）、学生委員会（学修支援体制に関わる事項）を置き、それぞれの委員会で年度前半に過年度実績に対する点検を行い、次年度に向けての改善事項を検討する。
- 改善事項のうち、教育力向上に関わる課題、学修支援体制に関わる課題などについて FD 委員会で整理して全学 / 学術院との連携も含めて FD を立案し、教育力向上に努める。
- 運営会議において検討結果を総合的に確認し、必要な改善目標を立案したうえで点検評価報告書にとりまとめ、必要に応じてそれらを反映したスタンダードの更新計画を取りまとめ、次年度に向けた計画とする。
- 検討事項と対策をまとめ、学位プログラムの HP 等を通じて公表し、内外の指導を仰ぐ体制としている。